

<<殺菌剤>>

天敵等への殺菌剤・除草剤の影響の目安

リドミルMZ	◎	◎	0	○	○	0	-	x	-	-	-	-	-	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	x	◎	-			
ルピゲン	◎	◎	0	◎	◎	0	-	◎	-	◎	◎	0	-	-	◎	◎	0	-	◎	0	-	○	-	-	◎	0	○	◎	◎	0			
ロブラール	◎	◎	0	◎	◎	0	-	◎	-	◎	◎	0	◎	◎	-	◎	◎	0	-	◎	0	◎	◎	0	-	◎	0	x	○	◎	◎	◎	0

注) 卵：卵に、幼：幼虫に、成：成虫に、マ：マミーに、蛹：蛹に、孢子：孢子に、巣：巣箱の蜂のコロニーに対する影響
 残：その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数です。数字の横に↑があるものはその日数以上の影響がある農薬です。
 *は薬液乾燥後に天敵を導入する場合には影響がないが、天敵が存在する場合には影響がでる恐れがあります。
 記号：天敵等に対する影響は◎：死亡率0～25%、○：25～50%、△：50～75%、x：75～100%（野外・半野外試験）、◎：死亡率0～30%、○：30～80%、△：80～99%、x：99～100%（室内試験）
 マルハナバチに対する影響は◎：影響なし、○：影響1日、△：影響2日、x：影響3日以上
 マルハナバチに対して影響がある農薬については、その期間以上巣箱を施設の外に出す必要があります。影響がない農薬でも、散布にあたっては蜂を巣箱に回収し、薬液が乾いてから活動させて下さい。
 ※1：産卵に対して影響がなくなるまでの期間

・表中のエルピニア カトローラは乳剤との混用はできませんが、3日以上の散布期間であれば近接散布が可能です。またパルスズブナシは混用できない剤とでも、翌日以降の近接散布は可能です。
 ・表中の影響の程度及び残効期間はあくまでも目安であり、気象条件（温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等）により変化します。
 上記の理由により、この表が原因で事故が発生しても、当協議会としては一切責任を負いかねますのでご了承の上、ご使用下さい。

<<除草剤>> (バイオセーフと混用可能な除草剤は下記のとおり)
 クサブロック、スタッカー、バナフィン、カーブ、クサレス、ターザイン、ウエイアップ、ディクトラン